



第3号では、自立活動の指導について、具体的な指導の視点について確認しました。今回は、自立活動の指導と各教科等の指導との関連について整理してみました。

自立活動の指導について②

本校の教育課程では、自立活動の指導は、学校の教育活動全体を通じて行うこととなっています。どのように指導していくべきでしょうか。

学校の教育活動全体を通じて自立活動の指導を行う際には、各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間（探求の時間）及び特別活動との関連を図っていくことが必要です。以下の点を参考に、両者の関連について考えていきましょう。

自立活動の指導と各教科等の指導との密接な関連

各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動と自立活動の指導内容との関連を図り、**両者が補い合っ**て、効果的な指導が行われるようにすることが大切である。

特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編（P120）より

○自立活動の指導は、児童生徒の学習上又は生活上の困難さを改善・克服し、各教科等の学びを支えるものとなっています。学校の教育活動全体を通じての自立活動の指導では、各教科等を学びながら、自立活動の配慮や手立て、自立活動の指導を通して、効果的な指導を展開していくことが考えられます。

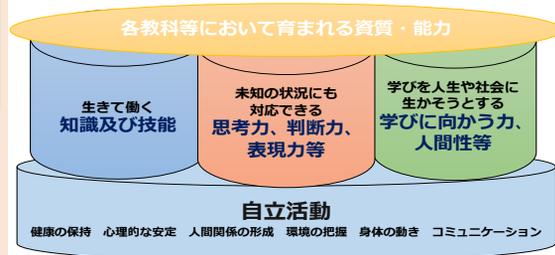
各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動にはそれぞれ独自の目標があるので、**各教科等における自立活動の指導に当たっては、それらの目標の達成を著しく損なったり、目標から逸脱したりすることのないよう留意**しながら、自立活動の具体的な指導内容との関連を図るよう工夫するなど、計画的、組織的に指導が行われるようにする必要があります。

特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編（P120）より

○各教科等における自立活動の指導では、自立活動の目標や指導内容が大きくなりすぎて、本来の各教科等の目標や指導内容を見失ってしまうことがしばしばあります。そのため、各教科等の指導内容と関連させることで、各教科等を学びながら自立活動の指導を展開することができます。

本校で作成している個別の指導計画（様式3-1）をもとに、どの学習場面でどのような自立活動の指導を行っていくかを考え、自立活動の指導と各教科等の指導を関連させたものにしていくことができます。☆裏面☆では、自立活動の指導と各教科等とが関連した指導の例を示しましたので、ご活用ください。

「自立活動の意義」～イメージ図～



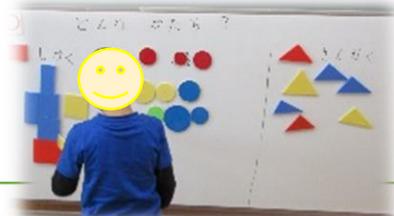
自立活動の指導は、各教科等において育まれる資質・能力を支える役割を担っている。

福島県特別支援教育センター 研修資料より

自立活動の指導と各教科等の指導との関連（具体例）

【具体例1】

小学部 算数科「図形」



児童の実態

形や色を弁別したり、分離したりする際に、教師が提示した教材に注目が難しく、他に気になることがあり、学習への意欲や集中を持続しにくい。

自立活動の指導

注目しやすい色や大きさ、操作しやすい図形のパネルを活用することで、児童が注意を持続させることができることを実感し、自分に合った注意集中の方法を積極的に使用できるようにしていく。

算数科の指導

注目しやすい色や大きさ、操作しやすい図形のパネルを繰り返し操作することで、形や大きさなどの違いに気付き、分類したり集めたりすることができるようにする。

関連

【具体例2】

小学部 国語科「書くこと」



児童の実態

文字に興味を示しているが、手指の巧緻性の課題もあり、鉛筆等の握り方や筆圧などがうまくいかず、線や字を書くことが困難であり、達成感が得られず集中力が続かない。

自立活動の指導

持ちやすく、筆圧が弱くても書きやすいペンを活用することで、スムーズに字をなぞったり書いたりすることができることに気付き、自分からペンを選択して、書くことに集中して取り組むことができるようにしていく。

国語科の指導

自分の名前や物の名前を文字で表すことができ、簡単な平仮名をなぞったり書いたりすることができる。

関連

自立活動の指導をとおして、子どもたちが、自分の学習上の困難さを改善できることに気付き、自ら道具を選んだり、主体的に学習に取り組んだりしていくことができるように働きかけていくことで、学びを深めていくことができます。また、各教科の指導との関連では、自分の得意な学習のスタイルを知り、自ら積極的に使えるように指導していくことで、各教科の目標を達成していくことにもつながっていきます。

